

2022年度 光塩女子学院幼稚園 学校評価報告書

2023年3月

学校法人光塩女子学園 光塩女子学院幼稚園

1. 園の教育目標

創立当時の、家庭的な温かい雰囲気の中で、一人ひとりをかけがえのない存在として大切にす
るきめ細やかな愛情深い関わりをする園の理念と伝統を受け継ぐ教育を行なう。

2. 目指す子どもの姿

- ◎ 神様からいただいた自分のいのちと生きとし生けるすべてのいのちを大切にする子ども
- ◎ 感謝の心、思いやりの心を実行する子ども
- ◎ 自分から挨拶のできる子ども

3. 本年度の重点目標

- ① 「カトリック幼稚園」としての教育の実践を明確にする。
- ② 特色ある教育活動として、絵本あふれる環境づくりと読書活動を推進する。
- ③ 保護者との「共育」をめざすとともに、子育て支援を充実する。

4. 重点目標達成に向けた実施内容

- ① ・カトリック行事及び日常の保育の在り方の再確認
・「カトリック教育カリキュラム」改訂
・教職員の研修の実施
- ② ・図書室の改善・改修、蔵書点検及び整備
・司書の配置（絵本の貸し出し、読み聞かせの充実）
・読書活動の計画・立案・実施（絵本作家による教員研修会及び保護者講演会を実施）
- ③ ・「赤ちゃんから卒園まで」の一貫したしくみづくりの充実
（「赤ちゃん広場（にじっこランド）」「未就園児クラスの充実」「園庭開放」）
・幼稚園の教育活動の見える化を目指したホームページの改善
・Instagramによる教育活動の適時の発信
・長期休業中の常勤職員による預かり保育の充実（縦割り保育の実践）

5. 評価項目に対する自己評価及び取り組み状況について

《評価点》

A=十分達成できている B=達成できている C=成果が十分ではない D=取り組みが不十分である

（自己評価・・・○取組状況 ●課題）

I 保育の計画性 【B】

評価内容	①園の教育理念・教育目標の理解 ②幼稚園教育要領の理解 ③教育課程の編成 ④指導計画の作成 ⑤環境の構成 ⑥保育の計画の評価・反省
自己評価	○教育目標を意識し、計画を立てて教育活動を行なった。また、カトリック幼稚園としての教育活動を通して、その使命を果たすべく、「カトリック教育のカリキュラム」の見直しをおこなった。 ●コロナ禍の中という状況で、教育活動に制限をかけることが多かった。そのため、異年齢の幼児が交流をする機会を豊かに展開することができなかった。あらためて教育課程・指導計画の見直しをする。 ●全体で教員同士が保育を見合い、振り返りをする機会を計画的に設定する。

II 保育の在り方、幼児への対応 【A】

評価内容	①健康と安全への配慮 ②幼児のみとりと理解 ③指導とのかかわり ④保育者同士の協力・連携
自己評価	○子どもたちへのきめこまやかな指導のために、担任の常勤の教員と非常勤の教員との複数担当制による連携・協力体制が適切に行なわれるよう常に心がけている。 ●コロナ禍の中という状況で、教育活動に制限をかけることが多かった。今後は可能な範囲で縦割り保育や交流を企画し、積極的に進めていく。

III 保育者としての資質と能力 【A】

評価内容	①専門家としての能力・姿勢・義務 ②組織の一員としての在り方 ③保育の楽しみ・喜び
自己評価	○保育者としてプライドをもって、チームの一員として職務を果たしている。 ○仕事の効率化を目指し、業務のICT化を進めた。 ●園務分担の見直し、計画的な会議の実施、ICTのさらなる活用を進める。 ●若い教員の発想を豊かに展開できるチームの雰囲気醸成する。 ●特別支援教育についての取り組みが不足している。発達が穏やかな幼児への対応について、研修を深めるとともに、専門家からの助言を受ける。

IV 保護者への対応 【A】

評価内容	①情報の発信と受信 ②守秘義務の遵守 ③対応上のマナー・心構え ④保護者からの意見への対処の仕方
自己評価	○“れんらくアプリ”で、「園だより」「図書だより」「お知らせ」「アンケート」「出欠管理」等、適切に瞬時に配信できるシステムを立ち上げた。 ○教育活動の「見える化」を図るため、ホームページを改善した。インスタグラムにより園児の様子を適時に配信している。 ●適時に保護者と個々に話し合える時間の設定については、コロナ禍の中で、懇談会の回数や方法が削減していることもあり、十分ではなかった。懇談会の実施方法及び降園時の保護者との連絡の仕方などを改善する。

V 地域の自然や社会とのかかわり 【B】

評価内容	①地域の自然・人々とのかかわり ②小学校との連携 ③子育て支援と地域への開放
------	---

自己評価	<p>○子育て支援の一貫として「赤ちゃん広場《にじっこランド》」（5回）、「園庭開放《おひさまキッズ》」（6回）、「2歳・3歳児そら組」（毎週 水・木・金 月2回の土曜日）を実施し、ベテラン教員による子育て相談を工夫した。</p> <p>●地域の環境、人材、近隣小学校との連携において、地域の要となる幼稚園として積極的な繋がりを模索する。また、地域の外部人材の活用などを視野に進めていく。</p> <p>●光塩幼稚園は男女共学である。すべての園児の進学を視野に入れて、公立小学校との連携を推進する。</p>
------	---

VI 研修と研究 【B】

評価内容	<p>①研修・研究への意欲・態度 ②保育者としての専門性に関する研修・研究 ③今日的課題に関する研修・研究</p>
自己評価	<p>○系列幼稚園である日野幼稚園との交流研修、カトリック幼稚園研修、杉並区幼稚園研修、私立幼稚園研修等に参加をした。</p> <p>●経験年数に応じた研修、幼稚園の実態や個々の教職員のニーズに応じた研修など、計画的な研修のしくみを構築していく。</p>

VII 幼稚園の特色・取り組み

評価内容	カトリック幼稚園としての取り組み【A】
自己評価	<p>○園長（シスター）による「宗教の時間」を全クラス（そら組12回、ことり組7回、ほし組9回、ゆり組13回、ばら組15回）で実施した。</p> <p>○教職員全員が、カトリックの精神に基づく教育やかかわりができるように、あらためて「カトリック教育カリキュラム」を見直し、作成した。</p> <p>●カトリック教育に関する教職員研修は、継続して実施する。</p>

評価内容	「人間関係力」の育成の取り組み（自立心・共同性・表現力の育成）【A】
自己評価	<p>○主体性を大事にした「自由遊び」の充実、集団の中での役割と自己有用感を育てる「当番活動」の実施、思いを言葉で伝える「お祈り」における言語活動を重視している。</p> <p>●園児の発想を活かした、園児が主体となる行事などの教育活動については、教員の指導が多く入る傾向にある。幼稚園の教育活動の「不易と流行」の見直しをしつつ、目の前の子どもの実態に即した新しい発想を大事にした柔軟な教育活動の実践をする。</p>

評価内容	健康な心と身体の育成の取り組み（「給食」を通じた食育の実施）【B】
自己評価	<p>○保護者の予定により毎日「給食」を選択できるシステムになっていることが好評である。</p> <p>○食育の一貫として、「給食」は、敢えて和食のメニューを取り入れている。</p> <p>●「食育」については、給食の時間をきっかけとし、「食べることの喜び・楽しみ」「食材への理解」などへ広げていきたい。そのために教員からの、園児や保護者への発信を充実させる。</p> <p>●コロナ禍の中で数年中止している保護者による「手作り給食」の実施を、保護者の要望にそって検討したい。</p>

評価内容	光塩女子学院に繋がる幼稚園（光塩ファミリーとして）【B】
自己評価	<p>○光塩女子学院の魅力の発信のため、中等科・高等科の生徒による「光塩新聞」を全家庭に配布した。子どもの将来の姿を見ることができる内容には好意的な感想が寄せられた。</p> <p>○光塩女子学院の敷地内にある施設を、幼稚園の行事等で活用する試みをした。 （幼稚園の講演会を実施、2023年度運動会は体育館を使用を検討）</p> <p>●中等科・高等科の家庭科「保育」の実習を受け入れている。「保育実習」の学びの意味を、幼稚園の教員が理解し、家庭科教員との円滑な連携のもと、さらに充実させていく。</p> <p>○初等科との連携について、より強固な「幼小連携」を進めるため、「幼小連携プロジェクト」を立ち上げた。</p> <p>●相互理解のために、園児と児童の交流、教員同士の交流の機会を計画的に設定していく。</p>

6. 学校関係者評価

【幼稚園全体として】

- ・教育理念や伝統を大事にしなが、時代の流れやニーズに応じて改革を進め、保護者アンケートからも保護者が幼稚園の教育方針に満足していると思われる。これからも保護者の声に真摯に対応する幼稚園であってほしい。
- ・全体的に、教職員が一体となって、具体策をもって課題に取り組んでいる姿が見える。
- ・園児の日頃の明るい挨拶などから、幼稚園生活でかけがえのない自分を確認し、成長している姿を見ることができる。

【重点目標① カトリック幼稚園として】

- ・目指す子どもの姿にカトリック幼稚園としての大切な視点が示され、「カトリック教育のカリキュラム」には、他の人や自然とのつながりの中にある自分を意識できるように構成されている。さらに充実させるために、一人一人の教員が、伝えるべき価値の内容を咀嚼できることが大切である。

【重点目標② 読書活動の推進】

- ・図書室の充実、子どもたちが広い世界に出会う大事な場の提供である。「読書活動の強化」はとてよ計画実施である。園児が自由に絵本を手にとり、自分が好きなものを選択ができる環境になることを目指してほしい。

【重点目標③ 保護者との「共育」、子育て支援】

- ・ウィズコロナの中で工夫をしながら、在園児・未就園児・地域の人々が光塩幼稚園の魅力に引き込まれるような教育活動の計画・実施を進めていただけることを期待する。
- ・コロナ禍にあって、ストレスの多かった保護者が、子育てにおける気がかり・不安・疑問等を安心して語ることのできる場の提供があるとよい。保護者との「共育」を目指し、保護者参観の機会を増やすとともに、保護者とのコミュニケーションの場のさらなる充実に期待する。

【これからの教育活動への期待】

- ・教育内容について、体力向上の視点や、さらなる言語、知的好奇心の向上をめざした豊かな展開を期待する。
- ・幼小連携の重要性を踏まえ、光塩女子学院初等科をはじめ、地域小学校との交流をいっそう丁寧に進めていただきたい。

7. 総合的な評価結果

【幼稚園全体として】

- ・教育理念や伝統を大切にしながら、時代の流れやニーズに応える改革・改善が進められている。
- ・教職員一人一人がプライドをもって、チームの一員として職務を果たしている。
- ・コロナ禍の中での教育活動の実施に、多くの制限がかかり豊かに展開ができなかったことが課題として残った。

【重点目標① カトリック幼稚園として】

- ・「カトリック幼稚園」としての教育の実践を明確にする努力をした。「カリキュラム」の見直しができることが成果である。幼稚園の目指す「神様からいただいた自分のいのちと生き年生けるすべてのいのちを大切に子ども」の具現化に向けて、教員一人一人が自分のものとして実践していくことがこれからの課題である。

【重点目標② 読書活動の推進】

- ・今年度は「読書活動の強化」として、司書の配置を初め、蔵書の点検・充実、全学年での読書活動の推進、保護者ボランティアの導入の試み、絵本作家による講演会等、多様な活動を、幼稚園の特色ある教育活動として展開した。次年度は、新図書室「えほんの森」を新設し、一人一人の園児が自由に本と出会う場にすることを目指す。

【重点目標③ 保護者との「共育」、子育て支援】

- ・「れんらくアプリ」の活用、ホームページの改善、インスタグラムの活用等、教育活動の「見える化」の推進、適時の情報発信に、保護者の満足度も高い。
- ・子育て支援の一貫としての取組みが、徐々に成果として現れている。また、2023年度から満3歳児クラスの保育内容（保育時間・給食・預かり保育）を他学年と同様の内容に改訂した。
- ・次年度は、保育参観、懇談会、保護者とのコミュニケーション方法等のさらなる工夫を検討する。

【幼稚園の特色・取り組み】

- ・光塩女子学院に繋がる幼稚園として、意図的・計画的にしくみを検討していくことが課題である。特に、初等科との幼小連携事業を充実させるため、幼稚園においては「幼小連携プロジェクト」を立ち上げ、始動している。

8. 今後取り組む課題

1 教育内容の見直し	体力向上をめざし、運動面での教育内容、自由遊び、外遊びのカリキュラムと指導方法の見直しする。また、園庭遊具の検討を行なう。 園児や卒園生にとって豊かで思い出深い体験となるよう、行事の実施方法及び内容の再検討を行なう。
------------	---

2 特別支援教育の推進	発達が穏やかな子どもの理解と対応について、専門家による教員研修を実施するとともに支援体制を構築する。
3 幼小連携の推進	幼小連携プロジェクトチームを推進役として、幼児と児童の交流、行事による連携、研修・参観を計画的に実施する。
4 子育て支援の充実	赤ちゃん広場（にじっこランド）の開催回数及び内容の充実を図る。 保護者との「共育」を目指し、保護者の子育て相談システムを検討する。